

令和 2 年 9 月 16 日現在

機関番号：32501

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18586

研究課題名（和文）国際社会福祉研究の可能性：イスラム教とソーシャルワーク

研究課題名（英文）"Social Work" and Religion in Asia: the Evolution of International Social Work Research

研究代表者

松尾 加奈 (Matsuo, Kana)

淑徳大学・その他部局等・准教授

研究者番号：60727478

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではイスラム教徒が人口の多数を占めるアジア4カ国（パキスタン・バングラデシュ・インドネシア・マレーシア）についてイスラム教信者・施設・団体が実施するソーシャルワーク活動、国家の社会福祉施策およびソーシャルワーク教育カリキュラムを調査した。各国ではイスラム教宗教施設や団体、信者による様々なソーシャルワークの活動が存在している一方、ユダヤ・キリスト教的価値基盤にあるソーシャルワーク理論偏重という専門職教育の課題が見えた。ソーシャルワーク専門職教育に加え、「助け合い」や「支えあい」など土着のソーシャルワーク活動（インディジナス・ソーシャルワーク）の探求が重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における国際社会福祉の議論は国際比較研究・日本の社会福祉制度に基づく領域に焦点をおいた研究があるものの活発な議論がなされているとは言い難く、イスラム教と社会福祉に着目した先行研究も少ない。本研究は海外の議論で頻出するソーシャルワークのインディジナイゼーション（現地化）とイスラム教によるソーシャルワーク実践を切り口に国際社会福祉研究の可能性を探求した点で挑戦的であり、研究成果を英文で印刷し国際組織を通じて配布予定であるため国内外の先行研究となる点で意義が大きい。

研究成果の概要（英文）：The object of KAKEN Research project 2017-2020 was to collect data on Muslim religious activities carried out to help vulnerable people and how spirituality is taught in social work education in Muslim majority countries. Without understanding the facts based on the above empirical data, it is difficult to figure out why social work transmitted from European countries, and the US does not fit the context of Asian countries. The research group comprised researchers from Muslim majority countries in Asia: Bangladesh, Indonesia, Malaysia, and Pakistan. Interviewees were selected from both categories: 1) workers in Muslim NGOs serving the needy, and 2) educators in Social Work schools. Throughout this project, four critical elements of "social work and spirituality" in the targeted countries were discussed and examined as follows: Doctrines, Inadequate government/public services, Lack of education materials, and Rethinking the meaning of "indigenous social work."

研究分野：社会福祉

キーワード：ソーシャルワーク教育 インディジナス・ソーシャルワーク イスラム教的価値観 ソーシャルワークの価値基盤 仏教ソーシャルワーク ユダヤ・キリスト教的価値観 インディジナイゼーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

2014年7月に採択された「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義(IASSW/IFSW, 2014)により、「ソーシャルワークは専門職(practice-based profession)」との概念が世界中に拡散し、ソーシャルワークの実践と専門職教育に浸透した。一方、アジア太平洋地域ではソーシャルワーク専門職による活動のみならず、コミュニティの実施する様々な相互扶助や支援活動全般を「ソーシャルワーク」と称する実践報告もある。例えば宗教者や地域のリーダー、コミュニティの長たちによるこれらの活動は、欧米で生まれ理論が醸成し教育方法が確立されたソーシャルワークと機能こそ似ているものの支援の方向性やその目的が異なっている。しかし、ソーシャルワーク教育によって語られるソーシャルワークと、実際に地域で行われている相互扶助・支援活動を指すもっと広い活動「ソーシャルワーク」について、未だ十分に両者の整理がなされていない。グローバル定義にあるようにソーシャルワークが専門職であるとするのであれば、信者・宗教指導者たちの実践は、専門職として生業にしていけないのでソーシャルワークとは言えない。果たしてソーシャルワークは専門職によって独占されるものなのだろうか。この疑問が本研究の発露である。

日本国内の資格取得試験制度が確立した1980年代後半以降、福祉立法に基づく領域の研究は質・量ともに充実したものの国際社会福祉の研究は学術研究の方法論が確立されないばかりか議論も低調なままである。日本の代表的な福祉研究発表の場である日本社会福祉学会の国際社会福祉の発表テーマを分類すると、図1のように、より実践的な報告が多い。一方で、日本国外のソーシャルワーク研究者と議論すると、社会開発学、環境学、国際関係学、国際政治学、地政学等の我が国既存の社会福祉研究領域を超えた様々な領域の研究がある。日本の国際社会福祉

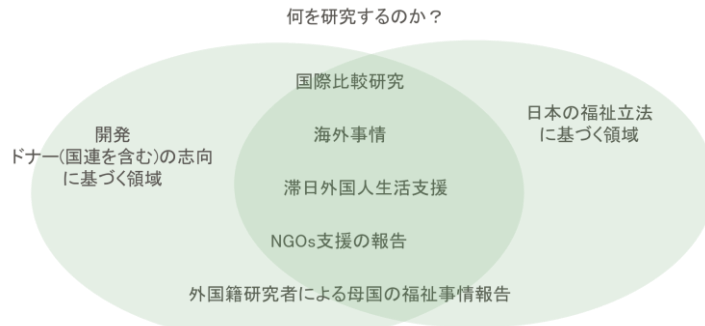


図1 国際社会福祉研究報告の発表テーマ分類

研究をもっと広範囲で分野横断的な研究領域として捉えることはできないか。国際を冠するならば日本に縛られることなく、もっと俯瞰の視点で社会福祉(ソーシャルワーク)に向き合う研究があってもいいのではないか。日本の福祉立法で対象とする人々への支援やその方法論だけが国際社会福祉研究ではないだろう。

また、2011年から国際共同研究を続けている中で、アジア太

平洋地域におけるソーシャルワークに必要なキーワードとして、人間の内面性への言及、スピリチュアリティ(宗教)を含めるべきという声を幾度となく聞いてきた。これらのキーワードは、より科学的で専門職(プロフェッション)化志向を進める西欧ルーツのソーシャルワークが削ぎ落としてきたものである。そこで本研究では、西欧ルーツのソーシャルワークの価値観の基盤とするユダヤ・キリスト教に次いで世界に信者数が多いイスラム教に着目し、イスラム教が実施している相互扶助・支援活動でソーシャルワークと同じような機能を持つ活動の事例を収集し、西欧ルーツのソーシャルワークとの異同を考察する。国境を越えて多くの福祉研究者と情報を共有し対等に議論する国際協同研究を通じて、20年以上未整備のまま遺された日本の国際社会福祉研究の道を切り開くことができると考える。

2. 研究の目的

アジア太平洋地域では、第二次世界大戦後にヨーロッパ旧宗主国および国連のプロジェクトを牽引したアメリカが、ソーシャルワーク専門職教育(schools of social work)に大きな影響を与えていることが報告されている。(Matsuo, 2015)

本研究では、①アジア地域でイスラム教信者が国民の多数を占める国を対象として、ユダヤ・キリスト教の価値観に基づくソーシャルワーク教育とイスラム教の価値観の融合(あるいは摩擦)の検証、②イスラム教によるソーシャルワーク機能を持つ実践活動と西欧ソーシャルワークの実践活動の異同の検証、③イスラム教の価値基盤に基づくソーシャルワークのモデルを提示、西欧ソーシャルワークとの異同の考察、の3点を研究目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究対象とする国及び研究体制

イスラム教の信者が人口の多数を占め、かつアジア太平洋ソーシャルワーク学校連盟(APASWE)の会員校が多いバングラデシュ・インドネシア・マレーシア・パキスタンの4カ国を対象とし、会長ズルカルナイン・ハッタ(Zulkarnain A. Hatta, DSW)教授の協力のもとで、現地研究協力者4名を選定した。現地研究協力者には代表者が設計した調査ガイドラインを配布した。現地研究協力者は以下の通りである。

調査対象国	インタビュー対象(団体数)
バングラデシュ	モスク(1) ソーシャルワーク教育校(3)
インドネシア	モスク(1) ソーシャルワーク教育校(1)
マレーシア	NGO(3: 薬物依存症者へのリハビリテーション NGO、HIV/AIDS 陽性の子ども達を支援するイスラム教徒、ムスリム系 NGO が経営する養護施設) ソーシャルワーク教育校(1)
パキスタン	モスク(1) NGO(2: 自然災害被災者支援、教育支援、地域開発) ソーシャルワーク教育校(1)

バングラデシュ Isahaque Ali, PhD
 インドネシア Adi Fahrudin, PhD
 マレーシア Mohd. Haizzan Yahaya, PhD
 パキスタン Muhammed Jafar, PhD

本研究は人々の生活規範となる宗教及びコミュニティの活動の分析を含むことから文化人類学・社会学の観点からの分析及び考察について研究分担者であるゴウホリ・ヨゼフが担当した。また、西欧ソーシャルワークとの異同について仏教社会福祉学からアプローチした分析及び考察を研究分担者である藤森雄介が担当した。

表 1 調査対象国とインタビュー対象

(2) 研究方法

本研究は調査対象国のソーシャルワーク教育及びイスラム教によるソーシャルワーク機能を持つ実践活動の実情を把握するため、現地研究協力者により各国のイスラム教徒や宗教施設で実施しているソーシャルワーク活動のヒアリング調査を実施した。インタビュー対象者は、①社会的に脆弱な立場にいる人々への支援を実施するイスラム教徒 NGO のワーカーと宗教指導者、②ソーシャルワーク教育校の教員とした。これらの結果を分析、各国の比較検討を行った。また、2019年12月7日に「ソーシャルワーク教育と宗教」と題する専門家会議を日本で開催し、最終報告書を2020年3月に刊行した(JSPS KAKEN RESEARCH PROJECT "Social Work" and Religion in Asia --The Case of Muslim--: For the Evolution of International Social Work, 2020)。

4. 研究成果

本研究は2015年から継続しているイスラム教とソーシャルワークに係る研究(*Islamic Social Work Practice : Experiences of Muslim Activities in Asia*, 2016; Matsuo, 2017)の第3フェーズであり、研究代表者が所属する淑徳大学において先行する「仏教ソーシャルワーク」との比較研究と位置付けて、2017年-2019年の3年間にわたり実施した。調査対象はアジアのイスラム教が人口の大多数を占める国々でソーシャルワーク専門職ではない宗教関係者による社会事業、括弧付きともいえる「ソーシャルワーク」の実践と、ソーシャルワーク専門職教育カリキュラムである。また、イスラム教徒が少数民族として異なる地域に居住する場合、モスクの諸機能、そしてイスラム自体(教義等)が持つソーシャルワーク(のような)役割について、ドイツおよびルーマニア在住のトルコ人へのインタビュー調査を分析することで、本研究テーマ「国際社会福祉研究の可能性」への国・圏域を超えた多様な視点からの理解を付加した。

調査により対象国における「ソーシャルワークとイスラム教」について以下4点の要素が抽出された。

(1) 教義

パキスタンのイマーム(イスラム教の指導者)は、ソーシャルワークの専門職及び教育者が自分の活動をソーシャルワークとみなそうがあるいは否定しようが構わない、と話していた。長い歴史の中で、モスクは人々や地域社会の生活に重要な役割を果たしてきた。このイマームのいるモスクに人々は1日に5回集まって祈る。家族や個人の悩みを抱えている信者たちは、モスクで礼拝する折にその場にいるイマームや信頼する信者たちに相談する。信者たちは、相談によって解決の道筋を助言する人がソーシャルワーク教育を受けているか否かに必要性を感じない。また、マレーシアのイスラム教徒の女性は、自分の家で孤児を引き取り養育していた。孤児たちは、両親がHIV/AIDSで亡くなった、あるいはHIV陽性で実親が養育できないと手放した子どもたちである。彼女は、活動は「愛、情熱、思いやり、慈善精神」に基づくものであり、支え合いはイスラムの教えであると答えた。

(2) 不十分な政府/公共サービス

各国政府が国際条約締結など外的要因から国内のソーシャルワーク・社会福祉制度を整備し施行しようとしても、国内の限られた社会資源(人材・資金力)では社会ニーズに対応できる十分な公共サービスの運用や提供は難しい。例えば、国連の子どもの権利条約に批准したパキスタンでは、国内の児童福祉制度整備を進めたが、依然として社会ニーズに対応し切れていない、という課題がある。一方で、宗教基盤のNGOは、国内外の人材・資金・ネットワークがある。これらの資源を活用し、ニーズにあった活動を展開することができ、国の制度施策、あるいは公共サー

ビスを補完していることが報告された。

(3)教材の欠如

2019年12月7日に東京で開催した専門家会議において、欧米諸国から伝播したソーシャルワーク専門職教育や実践には、理論的な枠組みとモデルがあることが指摘された。伝播したソーシャルワークは、調査対象国となった4カ国の生活様式や考え方にマッチしていない部分も多い。しかし、それぞれの国では自国のソーシャルワークを教えるために必要な教育資料（教科書、データ、文献、研究、講師）が不十分であるため、すでにできあがっている欧米諸国から伝播したソーシャルワーク理論的枠組みやモデルに頼らざるを得ない。

また、イスラム教徒が人口の大半を占める国々でさえ、ソーシャルワーク教育者が宗教を教えるのは難しいと感じている。その理由として、①ソーシャルワーク教育の教員自身が宗教を教えることに不慣れである、②教員自身が宗教を信じていない、という2点が指摘された。

(4)「インディジナスなソーシャルワーク」の意味を見直す

インディジナスなソーシャルワークは、日本では先住民・土着の人々のソーシャルワークと捉えられているが、アジア各国へのソーシャルワーク伝播以前から、自国にもともと存在している「助け合い」「支え合い」など、民族的背景だけではなく信仰宗教や地域に根づく利他的活動全般を指すものと理解すべきという認識が、現地研究協力者からの報告に見られた。本研究では、宗教機関や人々が提供する非専門職者によるソーシャルワーク活動のデータを収集したが、対象国でのこれらの活動はソーシャルワーク専門職の活動よりも大量かつ多岐にわたっているため、片鱗しか把握することはできなかった。しかし、この研究を通じ現地協力者たちは、自国の非専門職者の宗教者によるソーシャルワーク活動の情報収集をすることが教材開発につながるため、宗教者によるソーシャルワーク活動の調査を継続したいという希望があった。

現在、世界のソーシャルワーク議論で頻出するキーワードとして、「インディジナイゼーション」がある。2019年12月21日、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所は第4回国際学術フォーラム『仏教ソーシャルワーク』『仏教ソーシャルワークの旅 アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性を探る』において「世界のソーシャルワークへの異議申し立て「Indigenizationは答えになるのかグローバル定義”Indigenous knowledge”の意味」の公開セッションを開催した。しかし、文献検索サイトGoogle Scholarで2014-2020年の期間を区切り「ソーシャルワーク」「indigenization」を掛け合わせて日本語文献を検索したところ9件、「ソーシャルワーク」「先住民族化」「ソーシャルワーク」「インディジナイゼーション」では1件であった。グローバル定義日本の社会福祉専門職養成教育や実践で意識化されているとは言い難い。本研究では、ソーシャルワークのインディジナイゼーションが、対象国のソーシャルワーク教育を豊かにし、ソーシャルワーク専門職養成に貢献している一方で、宗教者が実践している活動（インディジナスなソーシャルワーク）もまた社会に大きな貢献をしていることから、この活動をインディジナス・ソーシャルワークとして捉え直す重要性が浮き彫りになった。「インディジナス・ソーシャルワークは先住民へのソーシャルワーク」と歪曲化せず、それぞれの国や地域の助け合い活動やソーシャルワークのような利他行動をインディジナス・ソーシャルワークとして捉える必要があることが示唆された。インディジナス・ソーシャルワークと、西欧ルーツのソーシャルワーク研究の対話・議論は、ソーシャルワークそのものの発展につながるだろう。

本研究は、ユダヤ・キリスト教の価値観から誕生したソーシャルワーク専門職教育とその実践とは異なる宗教的価値基盤を持つイスラム教のソーシャルワーク（のような）活動について、データの収集と両者のソーシャルワークの異同を分析することを目的としたが、現地研究協力者の貢献により、イスラム教宗教者によるソーシャルワーク活動も欧米にルーツのあるソーシャルワーク活動と同じように、教義に基づく利他的行動が出発点になっていることがわかった。これはユダヤ教、キリスト教と同じようにイスラム教も共通しており、超越的絶対者である神への信仰の発露としての活動であることで同じ様相である。

調査対象国においては、ソーシャルワーク専門職ではなく宗教者に対し、悩み解決への相談や仲裁、支援を求めている。これは、宗教者への信頼が根底にあり、また介入支援できる場が提供されていることが要因として挙げられる。これらの国で専門職によるソーシャルワークが活動できるための場の整備には、公共サービスの整備や教育の充実化など解決すべきハードルが多い。「ソーシャルワークは専門職」と狭めることで、福祉制度が整備されている国においては職業としての社会的認知度と地位を確保することは重要だろう。しかしそれでは調査対象国のように社会資源が十分とはいえない国々の社会的に脆弱な立場の人々の支援にはソーシャルワークが届かない。これは専門職によるソーシャルワークへの否定ではなく、ソーシャルワークの捉え直しであり、そもそも土着に存在していた支え合い活動のソーシャルワークが、理論化されている西欧ルーツのソーシャルワークと対話を始めることを意味している。「ソーシャルワークと宗教」の議論は国境を越えたソーシャルワーク研究パラダイムを変革する一つの可能性である。

日本での国際社会福祉研究は、国内の福祉法制度や社会福祉サービスに基づく特定の分野について、国際比較研究、海外にルーツのある人々への文化多様性に配慮した福祉サービスの議論、途上国支援に焦点を当てる傾向にある。さらに残念なことに、国際ソーシャルワークに関する議

論は長年不活発なままであり、海外の議論の流れに取り残されている。インディジナイゼーションに関する論文が極端に少ないのがその現れだろう。本研究で示唆された宗教的な活動を含む世界の国や地域のインディジナス・ソーシャルワークの事例を集め研究することは、これまでの日本の国際社会福祉研究とは異なる方向性であるが、世界の未来を変えうる共通テーマである「ソーシャルワーク」について、国境を超えて議論する研究という意味で国際社会福祉研究の新しい可能性である。

IASSW/IFSW. (2014). Global Definition of Social Work. Retrieved from <https://www.iasw-aiets.org/global-definition-of-social-work-review-of-the-global-definition/>

Islamic Social Work Practice : Experiences of Muslim Activities in Asia (ISBN:978-4-905491-08-8). (2016).
JSPS KAKEN RESEARCH PROJECT "Social Work" and Religion in Asia --The Case of Muslim--: For the Evolution of International Social Work (ISBN:978-4-908912-06-1). (2020).

Matsuo, K. (2015). *The Birth and Development of Asian and Pacific Association for Social Work Education - Internationalization and Indigenization-*. Retrieved from Tokyo: <http://id.nii.ac.jp/1137/00000341/>

Matsuo, K. (2017). *"Social Work" and Islam: Initiating a Dialogue Regarding Professional social Work and Religion in Asia.*

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Matsuo, K
2. 発表標題 The International Social Work Curricula in Japan: how to activate the discussion on the international social work in Japanese social work education?
3. 学会等名 SWESD 2020 - JOINT WORLD CONFERENCE ON SOCIAL WORK EDUCATION AND SOCIAL (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsuo, K.
2. 発表標題 The Wrking Definition on the Buddhist Social Work: the new perspective of the social work research from Asia
3. 学会等名 Workshop at the Tampere University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akimoto, T., Gohori, J., Fujimori, Y., Matsuo, K.
2. 発表標題 Exploring Buddhist Social Work: Outline of the Joint Research Project
3. 学会等名 International Conference on Emergin Social Work Practices and Education, Royal University of Bhutan, Samtse, Bhutan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gohori, J., Akimoto, T., Fujimori, Y., Matsuo, K.
2. 発表標題 Exploring Buddhist Social Work
3. 学会等名 第67回日本社会福祉学会 (大分県)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾加奈
2. 発表標題 ムスリムによる“ソーシャルワーク”はどのように行われているのか 土着の知から学ぶ (How does "Social Work" Activities Operated by Muslim in Asia?- Learning from the Indigenous Knowledge-)
3. 学会等名 2017年ソーシャルワーク・教育・社会開発アフリカ合同会議(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松尾加奈
2. 発表標題 "ソーシャルワーク"とアジアの宗教("Social Work" and Religion in Asia)
3. 学会等名 第24回アジア太平洋地域ソーシャルワーク合同会議(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Matsuo, K., Hatta, Z., Ali, I., Fahrudin, A., Yahaya, M.H., Jafar, M.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ARIISW-Shukutoku University	5. 総ページ数 102
3. 書名 "Social Work" and Religion in Asia --The Case of Muslim-- for the Evolution of International Social Work	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	藤森 雄介 (Fujimori Yusuke) (20364896)	淑徳大学・その他部局等・教授 (32501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	ゴウホリ ヨゼフ (Gohori Josef) (80611152)	淑徳大学・その他部局等・准教授 (32501)	
研究 協力者	ハッタ ズルカルナイン (Hatta Zulkarnain A.)		
研究 協力者	アリ イサハーク (Ali Isahaque)		
研究 協力者	ファハルディン アディ (Fahrudin Adi)		
研究 協力者	ヤハヤ ハイザン (Yahaya Mohd Haizzan)		
研究 協力者	ジャファー ムハンマド (Jafar Muhammed)		
研究 協力者	秋元 樹 (Akimoto Tatsuru) (20167844)	淑徳大学・その他部局等・教授 (32501)	